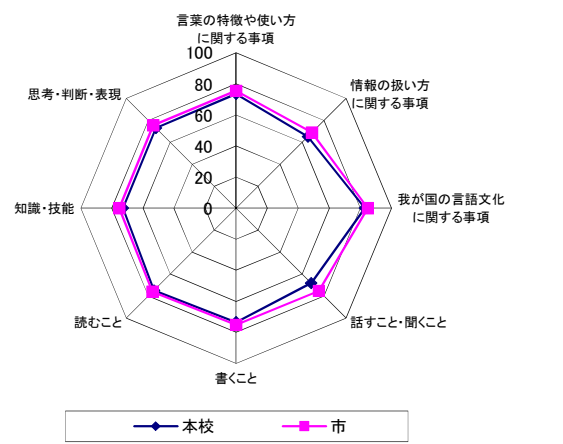


宇都宮市立国本中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	73.5	75.6	66.5
	情報の扱い方に関する事項	65.2	69.0	62.0
	我が国の言語文化に関する事項	82.9	84.7	78.2
	話すこと・聞くこと	68.3	75.3	69.4
	書くこと	73.5	75.2	65.1
	読むこと	74.9	76.2	68.8
観点別	知識・技能	72.9	75.3	66.7
	思考・判断・表現	73.0	75.6	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

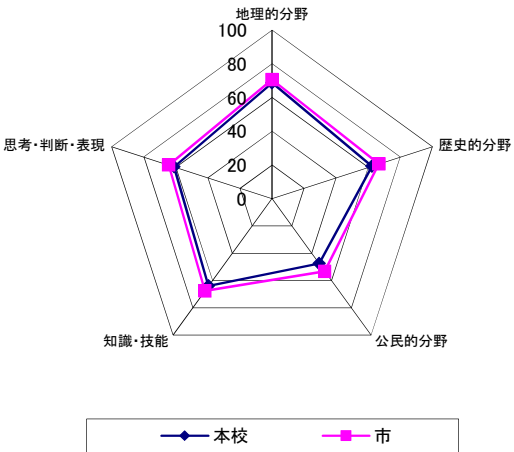
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○本校の正答率は参考値を7ポイント上回っている。また観点別の「知識・技能」でも参考値を6.2ポイント上回っている。 ○朝の読書で言葉に親しむ習慣や、補助教材を使っている漢字の書き取り学習が結果に結びついたと考えられる。漢字の読みでは「欺く」で市の正答率を7.2ポイント、書きでは「預ける」で参考値を20ポイント上回っている。 ●「兼ねる」の読みの正答率が低かった。文法の助動詞についての正答率が市、参考値より1.2～4.9ポイント低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・文法学習については、既習内容を確認しながら繰り返し問題を解き、復習して達成感を積み上げることで苦手意識をなくしていく。 ・漢字の読み・書きともに既習漢字がうろ覚えで普段の生活で使いこなせていない傾向がある。授業の振り返りシートで日常的に既習漢字を使う機会を設けることで定着を図る。 ・言葉に親しむ習慣を身に付けさせるため、朝の読書の継続を学校全体で取り組みたい。
情報の扱い方に関する事項	○本校の正答率は参考値を3.2ポイント上回っている。 ○説明的文章で「情報と情報との関係について理解し、論理の展開の仕方を捉える」という項目で、参考値を8.7ポイント上回っている。 ●本校の正答率は、市の平均正答率を3.8ポイント下回っている。 ●特に「情報と情報との関係について理解し、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫している」について市の平均を5.7ポイント下回っている。書くことへの苦手意識をもつ生徒がいると考えられる。	・情報と情報との関係を捉える読解の訓練を通して、多くの情報を比較・整理しながら、自分の考えが分かりやすく伝わる文章が書けるように指導する。作文や小論文を書く時間を設ける。
我が国の言語文化に関する事項	○本校の正答率は参考値を4.7ポイント上回っている。 ○古典への興味・関心が高まっていることが推察される。 ●「現代語訳を手掛かりに古典を読んでいる」は市の平均を1.8ポイント下回っている。 ●知らない古語の現代語訳が想像できずに未回答の生徒が多かったと考えられる。	・歴史的仮名遣いや古語などの古典学習の基礎を再確認し、古典を読む訓練を継続的にやっていく。 ・古典作品をより身近に感じられるように、文学史の学習を通して古典作品を数多く紹介する。 ・この領域について完答している生徒も多いので、読解への自信をさらに付けさせ、古典への苦手意識の解消を図る。
話すこと・聞くこと	○「話の展開を予測しながら聞いている」の本校の正答率は参考値を5.1ポイント上回っている。 ●本校の正答率は、参考値を1.1ポイント、市の平均正答率を7ポイント下回っている。 ●「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している」について、市の平均を11.2ポイント下回っている。	・教師の話を正確に聞き取り、学習に取り掛かる習慣を身に付けさせる。 ・聞き取りの小テストを定期的に行うことで、正確にメモを取ったり、話を正確に聞き取る力を身に付けさせる。 ・豊かな表現方法に必要な語彙を増やしたり、相手に伝わりやすい効果的な話し方の工夫についても指導していく。
書くこと	○本校の正答率は参考値を8.4ポイント上回っている。 ○「新しい科学技術との向き合い方」というテーマについての作文の課題では、全ての項目で市、全国の正答率を上回っている。 ●データを読み取り文章を書く項目は総じて正答率が低い。「情報の扱い方に関する事項」と併せて指導する必要がある。	・原稿用紙の使い方、示された型どおりに書く練習など基本的な事柄を丁寧に行った結果として、作文や小論文を書くことへの自信につながったと思われる。今後も継続したい。 ・情報やデータを正確に読み取る力や、比較や取捨選択のポイントなどを指導する必要性を感じた。今後は「情報の扱い方に関する事項」と併せて書くことの指導の時間を増やしていく。
読むこと	○説明的な文章、文学的な文章のどちらでも無回答率は低かった。また文学的な文章の内容の読み取りは市、参考値を上回っている。 ●説明的な文章の内容の読み取りは市の平均正答率を下回っている。	・説明的な文章、文学的な文章のどちらとも約7割の生徒は捉えることができていた。しかし、複雑な設問について正確に分析できず曖昧な解答をしたり、解答をあきらめてしまったりする生徒もいる。一問一答形式の問題だけでなく、いくつかの条件を設定した読解問題を定期テスト等に組み込むことを試みたい。

宇都宮市立国本中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	68.7	70.5	62.1
	歴史的分野	62.3	66.6	57.8
	公民的分野	47.6	53.3	45.2
観点別	知識・技能	64.0	67.6	59.2
	思考・判断・表現	61.1	64.5	55.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

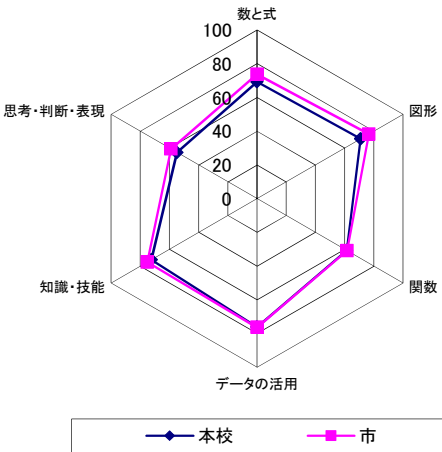
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○本校の昨年度の結果と比較すると、平均正答率は6.7ポイント上昇した。また「世界の姿」「日本の諸地域」の内容については、今年度の市の平均正答率を上回った。参考値と比較しても本校の正答率は上回った。 ●市の平均正答率と比較すると、本校の正答率は1.8ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・一問一答の問題を繰り返し解かせて基礎的な重要語句を効率よく覚えられるように援助するとともに、クイズ形式を取り入れてゲーム感覚で楽しく理解できるように工夫する。 ・地図やグラフ等、複数の資料から読み取れることを、自分の言葉や文章で説明・発表する場面を取り入れた授業を展開する。
歴史的分野	○本校の昨年度の結果と比較すると、平均正答率は1.8ポイント上昇した。参考値と比較すると本校の正答率は4.5ポイント上回った。 ●市の平均正答率と比較すると、本校の正答率はすべての時代で下回り、全体では4.3ポイント下回った。	・一問一答の問題を繰り返し解かせて基礎的な重要語句を効率よく覚えられるように援助するとともに、クイズ形式を取り入れてゲーム感覚で楽しく理解できるように工夫する。 ・基本的な年表を利用して時代の流れを理解させるとともに、政治史・文化史等の分野別年表を作成させることで、時代別の特徴をより具体的に把握できる課題を行う。
公民的分野	○参考値と比較すると本校の正答率は2.4ポイント上回った。 ●市の平均正答率と比較すると、本校の正答率はすべての項目で下回り、全体では5.7ポイント下回った。また本校の昨年度の結果と比較すると、平均正答率は10ポイント以上下回った。	・一問一答の問題を繰り返し解かせて基礎的な重要語句を効率よく覚えられるように援助するとともに、クイズ形式を取り入れてゲーム感覚で楽しく理解できるように工夫する。 ・身の回りの出来事やニュース等を利用し、公民的分野の学習が現代社会を生きる自分たちにとってとても身近なものとして興味・関心をもって意欲的に学習に取り組める授業を展開する。

宇都宮市立国本中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	69.3	73.8	71.4
	図形	71.0	76.7	67.9
	関数	61.4	61.6	52.2
	データの活用	76.2	76.4	65.4
観点別	知識・技能	72.3	75.2	69.9
	思考・判断・表現	54.8	58.9	48.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

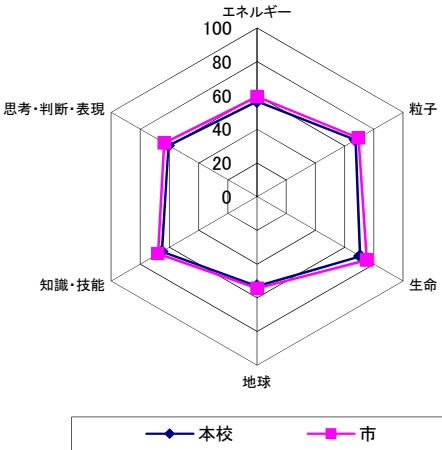
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○連立方程式の問題6(2)では市の平均を3ポイント以上上回る正答率であった。 ●式の計算の問題2、連立方程式の問題18(2)の正答率が、市の平均を7ポイント以上下回っている。式をつくることを苦手としている生徒が多いことが予想される。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基本的な計算を苦手としている生徒が多いため、様々な問題に挑戦できるように準備をする。 ・計算に対して苦手意識をもっている生徒も多いため、基本・標準・発展といったレベルに合わせて課題を準備して、計算に向き合える時間を作るように指導していく。
図形	○領域の正答率が参考値を3.1ポイント上回った。 ○空間図形の問題15の正答率が市の平均を1.6ポイント上回る正答率であった。図形の面積や体積の公式を把握できている生徒が多いことが予想される。 ●平面図形の問題14の正答率を11.3ポイント下回っている。図形の作図を苦手としている生徒が多いことが予想される。	・図形の作図や、性質などの知識の定着が不十分であることが考えられる。既習事項の復習を多く取り入れることや、穴埋めの課題などを実施し、少しずつ知識を定着させるよう指導していく。
関数	○領域の正答率が参考値を9.2ポイント上回った。 ○比例・1次関数の問題9(2)では市の平均を11.1ポイント上回る正答率であった。 ●比例・1次関数の問題19(2)では市の平均を9.9ポイント下回っている。グラフからの読み取りを苦手としている生徒が多いことが予想される。	・式、グラフ、表などが結びついて理解できない現状がある。式、グラフ、表などから必要な情報を読み取れるよう、反復練習を行い、時間をかけて指導していく。
データの活用	○領域の正答率が参考値を10.8ポイント上回った。 ○確率の問題13(1)、13(2)では、市の平均を2ポイント以上上回る正答率であった。 ●データの分析の傾向の問題12(1)、12(2)では、市の平均を3ポイント以上下回っている。ヒストグラムからの読み取りを苦手としている生徒が多いと予想される。	・データの活用を学習する際、語句が多く、混同しやすいため、それぞれの意味を理解させたうえで、多くの問題練習に取り組むよう準備する。 ・年度末に学習する単元であるため、既習事項の復習をする時間を捻出し、学習内容の定着が図れるよう指導していく。

宇都宮市立国本中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	56.5	59.3	62.1
	粒子	67.5	69.5	66.8
	生命	70.6	75.2	70.9
	地球	53.2	54.4	52.0
観点別	知識・技能	65.2	67.7	67.2
	思考・判断・表現	60.7	63.7	60.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

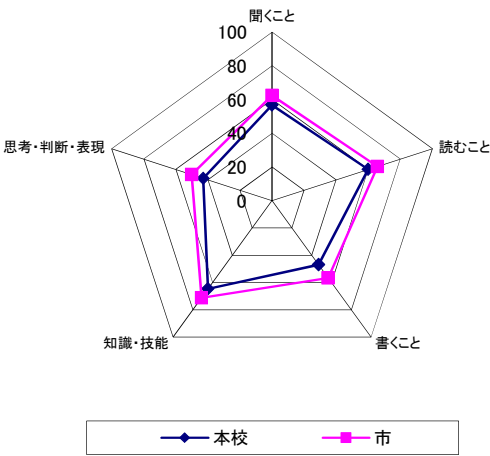
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○光の入射角の正答率は市の平均より4ポイント以上高く、基礎的な内容については理解している生徒が多い。 ●物体の運動に関する問題の正答率について、全体的に市の平均をやや下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・演示実験や生徒実験を豊富に取り入れ、目の前の現象を深く考えさせる習慣をつくる。 ・実験結果のうち一部を棄却する理由や、数値を求める問題を解くことで、論理的に考える力を身に付けさせる。
粒子	○領域の正答率が参考値を0.7ポイント上回った。 ●正答率は、全体を通して市の平均を下回っていることから、多くの生徒が困難を抱えている分野であることがわかる。 ●化学反応式や分解に関する問題の正答率は、市の平均よりも3ポイント下回っている。	・生徒の到達度に合わせて、基礎的内容の整理などのプリント演習を行う。 ・原子を模したモデルを使い、化学反応を動的に理解させることを心掛ける。 ・実験を行う前に目的やねらいを整理し、必要感をもって生徒実験に取り組ませる。
生命	○受精や有性生殖に関する設問の正答率は、市の平均をやや上回っている。 ●動物の体のつくりと働きについての設問の正答率は市の平均を下回っている。 ●肺炎になる息苦しくなる理由を分析し記述する問題の正答率が、市の平均に対して低い。	・実験の材料が自分の身体の一部であったり、自然の中で取りに行ったりするような内容は定着度が高い。これからも身近な題材を基に授業を進めていくようにする。 ・実験器具の使い方について、注目させながら説明したり、全員が実験器具に触れるように工夫していく。 ・動画などの視聴覚教材を用いて、目で見ることができない内臓について関心を持たせる。
地球	○領域の正答率が参考値を1.2ポイント上回った。 ○深成岩のでき方を説明する問題の正答率は、市の平均を4ポイント上回っている。 ●スケッチから火成岩を推察することができる問題や気圧の大きさを求める計算問題など正答率は市の平均を下回っている。	・実験ではスケールが大きく実物を見せられない内容について、定着度が低いと考えられる。簡易に準備できる溶岩や化石などを見せ、興味を持たせていく。 ・内容によっては、視聴覚教材を見せたり、クロームブックを使った調べ学習を行うことで、より深い理解を目指す。

宇都宮市立国本中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	56.7	62.4	59.8
	読むこと	59.9	65.7	58.5
	書くこと	47.0	56.8	43.5
観点別	知識・技能	64.6	71.2	65.3
	思考・判断・表現	42.9	50.1	40.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○英文を聞き、その内容を理解して絵や適切な応答文を選ぶ問題では、市の平均正答率におおむね達していた。特に、人物の説明を聞いて答える問題では、市の平均正答率を約5ポイント上回っていた。 ●平均正答率は、市の平均よりも5.7ポイント低い。 ●道具や天候を表す英文を聞き、適切な絵を選ぶ問題や、要点を聞き取って自分の考えを書く問題では、市の平均正答率を約10ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・目的・場面・状況を適切に設定した言語活動を通して、話し手が何を伝えたいのかを考えながら聞き取る活動を充実させ、習慣化させる。 ・様々な状況でのリスニング問題に取り組ませ、語彙力を伸ばすとともに、様々な表現に慣れ親しませていく。 ・英文の概要や必要な情報を聞き取る力を基に、聞き取った内容に対して自分の意見を英語で表現したり、日常的な話題について英語で自分の考えを表現させる活動を、今後も継続的に行う。
読むこと	○領域の正答率は参考値を1.4ポイント上回った。 ○現在完了形の理解を問う問題では、市の平均正答率を約1ポイント上回った。メールやポスターなどの資料を読んで解く問題では、市の平均正答率におおむね達している問題もあった。 ●平均正答率は、市の平均より5.8ポイント低い。 ●不定詞の副詞的用法の理解を問う問題では、市の平均正答率が10ポイント以上下回っていた。また、対話を読み、文脈から適切な答えを選ぶ問題でも、正答率が市の平均を約10ポイント程度下回っていた。	・各文法事項の基礎・基本的な知識の定着を図るため、書く活動を重視しすぎず、読む活動もバランスよく取り入れていく。 ・英文を読み、要点をつかみ取る力を伸ばすために、教科書の本文だけでなく、様々な英文に触れさせ、読む活動を習慣化させる。 ・読む活動で終わらせるのではなく、さらに自分の考えを英語で表現する機会も作り、書く力も同時に伸ばしていく。
書くこと	○領域の正答率は参考値を3.5ポイント上回った。 ○並び替えの問題では、giveを扱ったSV00の問題や、比較級の問題などが市の平均正答率におおむね達していた。また、見た場所について説明する問題では、対話の流れに沿った英文を書き、市の平均正答率におおむね達していた。平均正答率は、市の平均よりも9.8ポイント低い。 ●2文以上の英作文の問題では、どの問題も市の平均正答率を大きく下回っていた。特に、制服について自分の考えを書く問題では、無回答の割合が高かった。	・各学年で各単元の基礎・基本的な内容の一層の定着を図るとともに、既習の学習内容の復習を計画的に取り入れ、知識の確実な定着を目指す。 ・英作文に対して強い苦意識を持っていることも結果からうかがえるので、短い文を書くところからスタートし、スモールステップで活動を進めていく。 ・日々の授業において、英作文への取組において支援が必要な生徒を把握し、例文を書き写させるなど、理解度に応じた支援を、ALTや他の教員と連携を図りながら、今後も進めていく。

宇都宮市立国本中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
宇都宮モデルに基づく授業改善	生徒にとって「分かる授業」を展開するために、宇都宮モデルに基づき、めあての明示やペアワーク、グループワークなどの学習形態の工夫、授業の終末での学習内容の振り返りを全教科で実践している。	「学校の授業がどの程度分かりますか」の質問では、肯定割合が1学年で81.0（市83.7、本校昨年度77.4）ポイント、2学年で77.1（市79.1、本校昨年度81.0）ポイント、3学年で84.8（市81.4、本校昨年度78.6）ポイントと、3学年では市平均と本校昨年度肯定割合いずれも上回り、1学年で市平均を、2学年では市平均と本校昨年度肯定割合を下回った。
学びに向かう力の育成と学力の向上	主体的・対話的で深い学びの実現に向けたICTの効果的な活用の工夫を行った。また、定期テスト前の2週間、「家庭学習がんばりの記録」やクロームブックを利用し、家庭学習の時間を記入させることで、生徒自身の学習への取組状況を可視化し、個に応じて指導助言を行っている。	「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」の質問では、肯定割合が1学年で69.0（市62.8、本校昨年度55.7）ポイント、2学年で61.9（市57.7、本校昨年度48.6）ポイント、3学年で67.0（市70.0、本校昨年度62.5）ポイントと、3学年のみ市平均を下回ったものの、本校昨年度肯定割合は全学年で上回った。 「テストでまちがえた問題は、もう一度やり直している」の質問では、肯定割合が1学年で80.3（市72.4、本校昨年度74.8）ポイント、2学年で68.6（市65.3、本校昨年度61.9）ポイント、3学年で69.6（市72.7、本校昨年度74.1）ポイントと、3学年のみ市平均と本校昨年度肯定割合を下回ったものの、1、2学年では市平均と本校昨年度肯定割合いずれも上回った。
家庭学習における学習内容の復習の習慣化に向けた指導の工夫	全学年で家庭学習の習慣化に向けた取組を行っている。また、復習するポイントを生徒が整理しやすいよう、各授業で、その日の学習内容の振り返りを行っている。	「ふだん、学校の授業以外に、1日どれくらい学習していますか（塾、家庭教師含む）」の質問では、平日「ほとんどしない」の割合は、1学年で4.2（市6.1、本校昨年度1.7）ポイント、2学年で5.9（市9.6、本校昨年度9.5）ポイント、3学年で4.5（市3.4、本校昨年度0.9）ポイントであった。前年に引き続きいずれの学年においても良好な結果となった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

ここ数年継続して、①教員の授業力の向上、②学びに向かう力の育成、③家庭学習の習慣化の3点について、具体的な取組を行ってきたが、「学校の授業がどの程度分かりますか。」の質問項目では、1学年で81.0（市83.7、本校昨年度77.4）ポイント、2学年で77.1（市79.1、本校昨年度81.0）ポイント、3学年で84.8（市81.4、本校昨年度78.6）ポイントと、3学年では市平均と本校昨年度肯定割合いずれも上回り、1学年で市平均を、2学年では市平均と本校昨年度肯定割合を下回っていることから、①～③の継続した取組と、日々の教材研究と各教科の授業改善に取り組んでいく。

「ふだん、学校の授業以外に、1日どれくらい学習していますか。」の質問項目において、平日の学習をほとんどしない生徒が1学年で4.2（市6.1、本校昨年度1.7）ポイント、2学年で5.9（市9.6、本校昨年度9.5）ポイント、3学年で4.5（市3.4、本校昨年度0.9）ポイントと、どの学年も昨年度同様非常に少なくなっており、生徒の学習に対する意識の改善が見られている。

「授業で習ったことを、その日のうちに復習している。」の質問項目では、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と回答した生徒の割合は1学年で62.7（本校昨年度49.5）ポイント、2学年で57.6（本校昨年度74.3）ポイント、3学年で55.4（本校昨年度66.1）ポイントと、2、3学年では改善の傾向が見られる。1学年は復習の習慣が定着していないことから、各教科で復習を宿題にするなど、習慣づけに向けた取組を行うとともに、引き続き新入生に「家庭学習を行う習慣」「家庭学習で復習をする習慣」をしっかりと身に付けさせていくことを校内で共通理解を図り、継続的に指導していく。